

■After 建築名称 下段: 英語名	ルーブル美術館 Louvre Museum			
建築用途	大分類 展示施設	小分類 美術館		
改修設計者	Ieoh Ming Pei	URL		
所在地	フランス、パリ	Google Map		
改修年	1988_1993		After ガラス製ピラミッドのエントランス	
建築規模			概要 after 歴史的文化財であるルーブル宮殿を増改築と用途転用を経て、ガラス製ピラミッドのエントランスを象徴とする世界最大級の美術館に活用した事例	
掲載書誌	『I.M.Pei』Aileen Reid, 『LE LOUVRE』Anne Laure Peressin			
賞・選定				
■Before 建築名称	ルーブル宮殿			概要 before 元は12世紀に建設されたルーブル城で、増改築が繰り返されて現在のルーブル宮殿の建物となった。1793年に一部が王室美術館として開館した。
建築用途	大分類 その他	小分類 王宮、財務省等政府機関		
■写真 Before 0	After エントランスのらせん階段、中央には円筒形の油圧エレベーター		After 大理石彫刻が設置された古代ギリシャ・エトルリア・ローマ部門	
写真2 Before写真				
撮影者提供者	撮影者提供者 柳沢伸也(2005年)		撮影者提供者 柳沢伸也(2005年)	
■リノベーション内容	キーワード 用途変更、大規模改修、外観保存、増築、挿入、対比、痕跡	内容 1983年にフランスのミッテラン大統領が推進した「パリ大改造計画」の一つで、それまで宮殿内にあった財務省等が移されて宮殿全体が美術館となった。設計者のイオ・ミン・ペイは、広場中央にピラミッド型のエントランスを設置し地下空間で結ぶことによって、それまでバラバラだった各棟をひとつに集約することに成功した。多数の来館者による行列という課題は、この広大な地下エントランスによって解決した。また、1993年には美術館拡張計画として、地下のカルーゼル・ショッピング・モールに、自然採光を兼ねる逆ピラミッドが完成している。 エントランスの緩やかならせん階段の中央には、壁のないオープンな油圧式エレベーターが設置され、劇的なアプローチを形成している。夜間には、ピラミッドは内側から照らされ、周囲の歴史的建造物群との対比が強調されて美しい景観が作られている。<公式HP、及びBritannica.com参照>		
■備考	ガラスのピラミッドは、クフ王のピラミッドと同じ比率で鋼とガラスで構成されている。高さは20.6mに達し、四角い土台は一辺35m。ピラミッドは、1989年5月30日にフランス革命の200周年に合わせて正式にオープン。地下5mには岩盤があり、12世紀の要塞もあったため、掘削工事は難航を極めた。			
■作成者氏名/所属	柳沢伸也/JIA再生部会		管理者記載 SY-011	